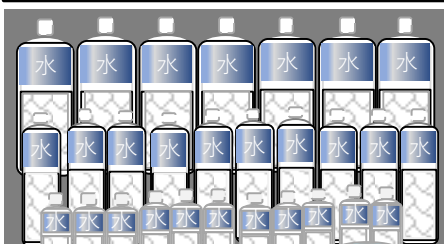


# そなえる まつなみ 第7号



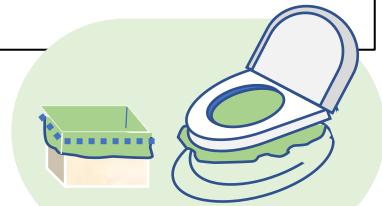
発行／松波自主防災会 千葉市中央区松波 2-22-35 松波会館内 2024年10月

## ●大地震に備える—まず水とトイレ！



○災害時にまず必要となるのが、水とトイレ。すでにお知らせしましたが、飲料水は1人1日3リットルが目安です。消防庁の目安では3日×人数分です。備えておいて、古いものから使って買い足しておきましょう。

○水道が止まりトイレが使えなくなった時に必要なのが携帯トイレ。仮設トイレの設置に7日ほどかかるとすれば、大は1日1回1枚、小は1袋を数回使用することで1日4枚、両方で1日5枚×7日×家族の人数分が目安となります。



(カットはいずれも『松波防災マニュアル』から)

## ●家具は必ず倒れる—家具の転倒防止を！

○「大地震では家具は必ず倒れるもの」と考えて、家具の固定や配置の見直しを行いましょう。気象庁の「震度階級関連解決表」によれば、「震度5強」で「棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定してない家具が倒れることがある」としています。寝室や幼児のいる部屋、部屋の出入り口、廊下・階段などに家具を置かないことがかんじんです。また、家具には転倒防止金具などを取り付けましょう。

## ●「臨時情報」に「対策を取った」2割ほど！

8月8日の宮崎県での「震度6弱」の地震を受けて政府が発表した「南海トラフ地震臨時情報」によって、人々はどんな対策を取ったでしょう。東京大学の研究センターが調べたところ、「水や食料の確認」2割、「家具転倒防止の確認」1割弱、「特に何もせず」2割強、でした。